

病院事業会計決算報告

平成20年度

平成20年度の病院事業は、医師不足からくる患者数の大幅な減少により、厳しい決算となりました。今後は、医師不足の解消に努めるとともに、引き続き診療体制の確保に努力していきます。

【20年度の経営状況】

平成20年度は、外来患者数が前年度に比べ2万60人減少したこと、入院患者にも影響し、1万5千8百58人の減となりました。この結果、収支についても収益から費用を差し引いた純損失（赤字額）は6億3千2百7万円と前年度より2億1千5百69万円増える結果となりました。この要因は入院患者およびこれに付随する手術件数の減少が大きく、いずれも医師不足が続いていることによるものです。1人体制の診療科も増えており、これ以上の医師減少は救急を含めた地域の医療体制の崩壊につながりかねない状況です。引き続き診療体制および入院収益の確保に努力していきます。

【経営形態に関する委員会】

今年5月から、市立病院にとって望ましい経営形態を探るため、外部の専門委員で構成する検討委員会が開催されています。地域において求められる市立病院の機能や地域医療機関との連携の必要性などが広く検討されており、まもなく答申が出される見込みです。病院では、医師確保を重点課題として引き続き取り組んでいます。将来的な経営形態について答申に沿った検討を行います。

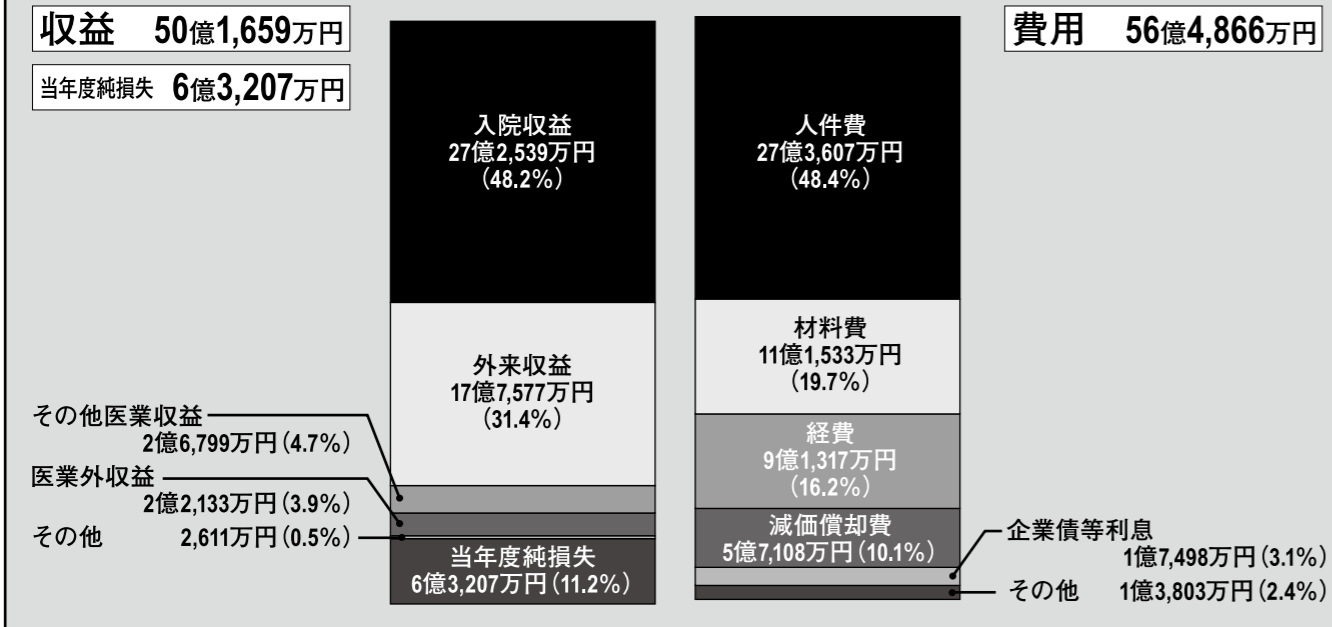
【インフルエンザ対策】

季節性に加え、今年も新型の流行が先行した形となりワクチン不足や報道の先行など病院においても問い合わせの電話が殺到するなど混乱が生じています。福岡県では10月23日から、新型コロナウイルスの患者の治療にあたる医療従事者への接種が始まっています。これは、大流行で患者が大量に発生した場合の医療体制を確保するためのものであり、最前線で治療にあたることとなる医師などの予防として欠かせないものです。

11月からは、基礎疾患がある人や妊婦などを対象に接種が行われる予定です。しかしながら、接種回数に不足するすべてが確定しているわけではなく、ワクチンの納入時期や量などは、はっきり決まっていない状況です。問い合わせいただいても明確にお答えできないばかりでなく、電話が集中することで救急受け入れに支障が出ることも心配されます。国は、ワクチンの確保および接種時期などを随時対応していきますので、冷静に行動することが必要です。また、ワクチンは絶対的な対策ではありませんので日頃からの手洗い・うがいの徹底、マスク着用やせきエチケットなど日常生活の中で予防に努めることが大切です。

収益と費用

平成20年4月1日～平成21年3月31日



病院をお金に換算

平成21年3月31日現在

資産 94億4,088万円	資本 81億2,941万円	負債 13億1,147万円
固定資産 84億571万円	自己資本 2億4,891万円	固定負債 1億3,258万円
流動資産 10億3,517万円	借入資本 95億125万円	流動負債 11億7,889万円
	剰余金 △16億2,075万円	

※△はマイナスを表しています

スタッフ紹介

ANSER
形成外科医長
境 隆博さん

ANSER
地域医療連携室看護師
仲野 大さん
藤井浩子さん

ANSER
地域医療連携室看護師
仲野 大さん
藤井浩子さん

形成外科ではどのような治療を行っていますか？
聞き慣れない診療科だと思いますが、主に体の表面にある病気の治療を行います。たとえば、けが、やけどや手術の傷跡、また、顔面の骨折によるゆがみの治療なども範囲に入ります。これ以外にも、あざの治療や美容的な治療も実施します。
★読者ごひんご
体の見た目などのごことで悩んでいる人は気軽に受診してみてください。

読者ごひんご
地域の医療機関との窓口として患者さんに安心して受診していただけるように、また地域の

先生方からの信頼を得られるよう看護師としての知識を生かしながら頑張っています。
※地域医療連携とは
地域の医療は、初期医療を担う「かかりつけ医」などの1次医療機関と検査・入院などが必要な患者さんを受け入れる2次医療機関、それから高度な救命救急などを行う3次医療機関が役割を分担することで守られることになっています。しかしこの連携がうまく機能しないと、「近くにかかりつけ医がない」「2次医療機関に患者が集中するため待ち時間が長くなる」「本来の救急患者の受け入れが困難になる」などの弊害が生じます。

お願い
夜間に受診する人の大半が軽症であり、中には急を要さない受診もあり重症患者の受け入れに支障が出る恐れも出ています。子ども等の急な発熱などは、まず「小児救急医療電話相談（#8000番）」を利用するなど、適切な受診を心がけましょう。

問い合わせ 田川市立病院
☎44・2100